

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の**学力**や**学習状況**を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や**学習状況**の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

- ・国語、算数両教科とも、相対的に回答方法が選択式の問題は正答率が高い。一方で国語、算数とも回答方法が記述式の問題では正答率が低くなる。
- ・算数では、相対的に「図形」に関する問題の正答率が高く、空間認識能力が育っていることが伺える。一方で「数と計算」に関わる問題の正答率が低く、計算力に課題が見られる。
- ・質問紙調査では、全国平均と比べて「理科が好き」と答えた児童の割合が高い。また「家にある本の冊数」も、全国平均よりも多いことが伺える。授業外でのICT機器の学習への活用も進んでいる。一方で、他の教科の学習意欲や、自尊心に関わる質問項目は、低い結果が見られた。

《強み・弱み》

- 理科の実験に代表されるように、自らが体験して学んでいく活動的な学習に対して意欲が高く、探究心も高い。また、ICT機器の操作に慣れており、授業内外に関わらず積極的にICT機器を学習に活用することができている。
- ×教科を問わず、考える事柄が多く回答までに時間がかかる問題の正答率が低い。無回答率の多さも鑑みると、粘り強く取り組むことが苦手の児童が多いと考えられる。また達成感や自己有用感が低く、明るい未来を目指していこうとする積極的な姿勢に欠ける。

【指導の充実に向けて】

- ◇受け身の学習を脱却し、主体的・能動的な学びの姿勢が育まれることを目指す。その根幹となる「学習意欲」を伸ばすために、「授業」「環境」「集団」の3つの要素を整え、誰もが意欲的に学ぶことができる「学びのユニバーサルデザイン化」を進めていく。
- ◇ICTの活用力の高さを生かし、ドリルアプリなどを用いて個々が課題を選んで取り組む「個別最適な学び」も進めていく。一方で、学級での話し合い活動や、ペアやグループで課題に取り組む学習など「協働的な学び」を積極的に取り入れ、互いの違いを認めて高め合う喜びを感じられるようにする。
- ◇読書活動を推進し、子どもたちの読書量が増えることを目指す。そのために朝の読書時間を設定し、子どもたちが読書に浸れる時間を確保し、様々な本に触れる機会を作る。
- ◇少人数指導を進め、一人ひとりに対してきめ細やかな見取りと指導ができるようにする。